

国土交通省では、人々の生き生きとした暮らしとこれを支える活力ある経済社会、日々の安全、美しく良
好な環境、多様性ある地域を実現するためのハード、ソフトの基盤を形成することを使命として国民生活に
密接に関連する仕事を行っています。

これらの仕事を推進するには、国民一人ひとりの理解と協力がぜひとも必要であり、真に豊かな国民生活
の実現は、二十一世紀を担う若いみなさんへと受け継がれていくものです。そこで、みなさんには、日頃か
ら国土交通省の仕事に関心を持っていただきたいと思いますし、将来、社会人になられたときには、豊かな国づく
りに貢献していただきたいと願っています。

今回の「国土と交通に関する図画・作文コンクール」には、全国の小学生のみなさんから図画二、七七九点、
中学生のみなさんから作文六八三編の応募をいただきました。

これらのうち地方審査を経て優秀な作品が中央に推薦されましたが、深い感銘を受ける作品も多く、国土
交通省では、識者等からなる審査委員会において慎重に入賞作品の選定にあたり、最優秀賞（国土交通大臣
賞）、優秀賞（国土交通事務次官賞）及び佳作を決定しました。

本作品集には、その中から、図画の部の最優秀賞六点、優秀賞十八点のあわせて二十四点、作文の部の最
優秀賞三編、優秀賞一〇編のあわせて一三編を収録しました。

おわりに、応募された小・中学生のみなさんや担当の先生方、都道府県など関係者のみなさんに厚くお礼
申し上げます。

図画の部

ずがのぶ

最優秀賞

(国土交通大臣賞)

わたしがみらいにのりたいくるま
 それいけ！モグラマシーン
 のりものいっぱい未来の町
 未来のぼくの町
 山をぬけて！
 4月から私も毎日よろしくお願いします

優秀賞

(国土交通事務次官賞)

工事現場のパワーショベル
 あったらしいな、こんなのりもの
 そらのまち
 ぐんぐんのびるクレーン車
 海の中が見える道
 にじの国
 エコの町
 ぼくらの町のポートルム
 空の国
 ていぼうの工事
 町なかのでんしゃ
 太陽光と風力発電を生かした未来の街
 住んでみたい不思議な町

森石 琳	福井県勝山市立荒土小学校	1年	5
田林 俊祐	静岡県浜松市立伊目小学校	2年	5
赤川 宙	秋田県秋田市立八橋小学校	3年	6
江川 主真	和歌山県田辺市立新庄第二小学校	4年	6
竹原 侑希	広島県尾道市立木ノ庄東小学校	5年	7
岩本 渚	徳島県鳴門市立島田小学校	6年	7
高橋 怜大	宮城県大河原町立大河原小学校	1年	8
須田 岳斗	茨城県守谷市立松ヶ丘小学校	1年	8
平井 利弥	大阪府岸和田市立天神山小学校	1年	9
植村 咲花	青森県八戸市立桔梗野小学校	2年	9
近藤 大斗	秋田県秋田市立旭川小学校	2年	10
塚本 怜	大分県宇佐市立高家小学校	2年	10
赤川 理人	埼玉県新座市立石神小学校	3年	11
山田 泰成	富山県富山市立芝園小学校	3年	11
神鳥壮一朗	大分県日出町立豊岡小学校	3年	12
鈴木 風花	岩手県奥州市立白山小学校	4年	12
辺見 理沙	神奈川県相模原市立向陽小学校	4年	13
高木 京香	京都府立命館小学校	4年	13
村山 桜花	福島県双葉町立双葉北小学校	5年	14

未来の車

くりの木から見た畑

未来都市

自由な世界

みんなで作った楽しいな

田中 裕貴

前田 寛輔

岩田 和大

中村幸太郎

橋本絵里奈

兵庫県神戸市立小寺小学校 5年

鳥根県松江市立法吉小学校 5年

愛知県一宮市立浅野小学校 6年

三重県松阪市立第四小学校 6年

大阪府大阪市立野中 6年

作文の部

さくぶんのぶ

最優秀賞

(国土交通大臣賞)

守り続けたい椎葉村

子供のための安全な公園づくりとは

この夏を通して見つめる国土

優秀賞

(国土交通事務次官賞)

公共交通と私達の未来

水のある生活

交通ICカード一枚で世界中を旅する日を夢見る

地震に強い街づくり

新幹線を何度も利用して気づくこと

未来の道づくり

失って得る幸せ

あったかみのある道路

森、日本の誇り

静岡の空から広がる世界の輪

甲斐 奈葉

小泉 花織

川島 翔子

小松 樹英

茂木 直人

岡野 眞利

渡邊しず代

澤入 美里

園田 星

今村 美穂

工藤華乃子

岡部 達美

小林 太士

宮崎県椎葉村立松尾中学校 1年

石川県金沢市立浅野川中学校 2年

福岡県福岡市立香椎第三中学校 3年

茨城県立並木中等教育学校 1年

群馬県前橋市立箱田中学校 1年

奈良県河合町立河合第二中学校 1年

宮城県名取市立第二中学校 2年

静岡県私立不二聖心女子学院中学校 2年

三重大学教育学部附属中学校 2年

佐賀県立香楠中学校 2年

青森県弘前市立第三中学校 3年

東京都私立東横学園中学校 3年

静岡県私立興誠中学校 3年

.....

44

42

40

38

36

34

32

30

28

26

24

22

20

16

16

15

15

14

図画の部

すがのび

最優秀賞 (国土交通大臣賞)



森石 琳
福井県勝山市立荒土小学校1年

わたしがみらいにのりたいくるま



田林 俊祐
静岡県浜松市立伊目小学校2年

それいけ！モググラマシーン

最優秀賞 (国土交通大臣賞)



赤川 宙
秋田県秋田市立八橋小学校3年

のりものいっぱい未来の町



江川 主真
和歌山県田辺市立新庄第二小学校4年

未来のぼくの町

最優秀賞 (国土交通大臣賞)



竹原 侑希 広島県尾道市立木ノ庄東小学校5年

山をぬけて！



岩本 渚 徳島県鳴門市立島田小学校6年

4月から私も毎日よろしくお願ひします

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

工事現場のパワーショベル

高橋 怜大
宮城県大河原町立大河原小学校1年



あったらいいな、こんなのりもの

須田 岳斗
茨城県守谷市立松ヶ丘小学校1年



優秀賞 (国土交通事務次官賞)

そのまち

平井 利弥
大阪府岸和田市立天神山小学校1年



くんぐんのびるクレーン車

植村 咲花
青森県八戸市立桔梗野小学校2年



優秀賞 (国土交通事務次官賞)

海の中が見える道

近藤 大斗 秋田県秋田市立旭川小学校2年



にじの国

塚本 怜 大分県宇佐市立高家小学校2年



優秀賞 (国土交通事務次官賞)



工町の町

赤川 理人
埼玉県新座市立石神小学校3年



ほくちの町のポーター

山田 泰成
富山県富山市立芝園小学校3年

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

空の国

神鳥壮一朗 大分県日出町立豊岡小学校3年



ていぼうの工事

鈴木 風花 岩手県奥州市立白山小学校4年



優秀賞 (国土交通事務次官賞)



辺見 理沙
神奈川県相模原市立向陽小学校4年

町なかのでんしゃ



高木 京香
京都府立命館小学校4年

太陽光と風力発電を生かした未来の街

優秀賞 (国土交通事務次官賞)



村山 桜花 福島県双葉町立双葉北小学校5年

住んでみたい不思議な町



田中 裕貴 兵庫県神戸市立小寺小学校5年

未来の車

優秀賞 (国土交通事務次官賞)



くりの木から見た畑

前田 寛輔 島根県松江市立法吉小学校5年



未来都市

岩田 和大 愛知県一宮市立浅野小学校6年

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

自由な世界

中村幸太郎 三重県松阪市立第四小学校6年



みんなで乗ったら楽しいな

橋本絵里奈 大阪府大阪市立野中小学校6年



佳作

作品名	氏名	学年	学校名
空気を汚さないドライブ みどりのなかにしきがわ せいらゆうせん	井射 旭	1年	東広島市立河内小学校
サンポートの風景	村田明日香	1年	宇部市立黒石小学校
みらいのまち	吉田 有希	1年	香川大学教育学部附属高松小学校
にじいろのまち	園部 裕希	1年	福岡市立青葉小学校
住んでみたいなこんな町	田中 耀聖	1年	佐賀大学文化教育学部附属小学校
みらいのまち	福田 吏妃	1年	熊本市立城山小学校
わたしの だいすきな こはまじま	近縄 力都	1年	宮崎市立西池小学校
国土を守るはたらく自動車 こんななたのしい河畔公園 ありがとう、工事のおじさん ジャングルパーク ロボットハウス できたてほやほやのアスファルト こっちはままでいったよ 国土と交通に関する図画 かえるバス	入羽ももこ	1年	竹富町立小浜小学校
	相原 光太	2年	弘前市立岩木小学校
	小林 美波	2年	海老名市立今泉小学校
	切通 魁人	2年	いすみ市立中根小学校
	福山 大輝	2年	矢板市立東小学校
	林 竜之介	2年	栗東市立治田西小学校
	西村 和晃	2年	天理市立朝和小学校
	青山 英樹	2年	松江市立恵曇小学校
	濱畑 朱花	2年	久留米市立金丸小学校
	瀬戸 一真	2年	筑後市立松原小学校
	松江翔太郎	2年	佐賀大学文化教育学部附属小学校
	松村 陸	2年	霧島市立小野小学校
	吉川 怜玖	3年	鶴岡市立朝陽第六小学校
	服部 真和	3年	双葉町立双葉北小学校
	坂田 晴	3年	茂原市立茂原小学校
	宮川 太真	3年	目黒区立駒場小学校
	小林 美悠	3年	筑西市立養蚕小学校

作品名	氏名	学年	学校名
人によさしく地球によさしく 世界につながる 海底エスカレーター	市岡 真智	3年	福井市明新小学校
海辺の生き物たち 未来の乗り物と家 みらいの道ろと町 みらいの町とのり物 みらいの海 たのしい動物の家 み来の町 虫にのってどこまでも フラワーランド 宇宙をかげぐるミステリー列車 みらいのすんでみたい町 未来のわたしのまち 高速道路入り口 ぼくが大好きな飛行機 リニア実験中 太陽の力を利用しよう 楽しい車	山本 凌輝	3年	岐阜市立本荘小学校
	満仲 待望	3年	桑名市立多度南小学校
	須藤 翔太	3年	松阪市立第四小学校
	國松 希海	3年	栗東市立治田西小学校
	吉田 翼	3年	橋本市立信太小学校
	赤井 愛梨	3年	橋本市立信太小学校
	吉本 美嶺	3年	阿波市立御所小学校
	鈴木 宏翔	3年	宮崎市立江平小学校
	天津 翔	3年	宮崎市立那珂小学校
	岩崎 里子	4年	帯広市立若葉小学校
	安倍 唯菜	4年	奥州市立胆沢愛宕小学校
	石川 陽佳	4年	双葉町立双葉北小学校
	川口 茜	4年	さいたま市立大砂土東小学校
	山本 楓也	4年	国分寺市立第六小学校
	戸祭 雄太	4年	高萩市立高萩小学校
	古屋 大樹	4年	甲州市立東雲小学校
	赤崎 友浩	4年	神戸市立小寺小学校
	小西 啓太	4年	栗東市立治田西小学校
	山野 真立	4年	井原市立西江原小学校
	辻田 真子	4年	宇部市立船木小学校
	峰久 義冬	4年	高松市立古高松小学校
	村上 果奈	4年	愛媛大学教育学部附属小学校
	富士川貴大	4年	熊本市立田迎小学校
	塚本 向陽	4年	宇佐市立高家小学校

佳作

作品名	氏名	学年	学校名
学校から見える町	高山 正記	4年	薩摩川内市立平佐東小学校
宇宙にうかぶ道路	黒澤竜一郎	5年	大槌町立安渡小学校
未来のまち	谷内 遥	5年	気仙沼市立南気仙沼小学校
道路をつくるおじさん	荻野 柚季	5年	海老名市立杉本小学校
田舎と都会をつなぐ道	福島 快成	5年	北区立稲田小学校
自然が残る未来都市いばらき	齋藤 真奈	5年	筑西市立関城東小学校
屋上を緑でいっぱい	山下 夏歩	5年	小山市立間々田小学校
未来の乗り物 エコすぎるカー!!	境野 大納	5年	伊勢崎市立名和小学校
未来の未来の道路・乗り物	栃山 智恵	5年	富山市立上条小学校
汗が流れる道路工事	高橋茉莉子	5年	津幡町立中条小学校
未来都市	山川 直人	5年	神戸町立下宮小学校
根尾のじまん 淡墨桜	荻原みのり	5年	本巢市立根尾小学校
浜松はいい町だよ	国島 大	5年	浜松市立広沢小学校
工事現場	肆矢 昇司	5年	名古屋市立ほのか小学校
四季のある地下街	岩崎 愛理	5年	桜井市立織田小学校
自然にかえりたい	戸知 愛花	5年	笠岡市立金浦小学校
松江に、とどけ!	花田 湧	5年	尾道市立木ノ庄東小学校
楽しいビル&楽しい乗りもの	安田萌々果	5年	田布施町立麻郷小学校
街はのびるよ緑と共にどこまでも	徳弘 達也	5年	香川大学教育学部附属高松小学校
安心、安全な水、より良い環境	市原 未智	5年	高知市立第四小学校
元氣村	山下 紗輝	5年	佐賀市立日新小学校
海底旅行海の汽車	小牧 虹夏	5年	城南町立豊田小学校
陸をつなぐ船	平田 彩子	5年	鹿児島市立鴨池小学校
水防演習	浅野 葵	6年	弘前市立福村小学校
輪になってできた町	庄司 歩美	6年	栗原市立瀬峰小学校
未来への入口	桂川 海輝	6年	横手市立金沢小学校
だれにでもやさしい豊かな未来	林 真梨奈	6年	茂原市立茂原小学校

作品名	氏名	学年	学校名
鳥気分て気軽に空へ	保戸山央弓	6年	結城市立結城小学校
ブランコと私	小出 愛実	6年	那須塩原市立西小学校
宇宙都市	三好 竜誠	6年	伊勢崎市立名和小学校
未来の町	栗原 章滉	6年	伊勢崎市立名和小学校
飛びたてた大空へーエアバス380	村上 颯	6年	飯山市立飯山小学校
ヘリコプタートレイン	伊崎 瑛一	6年	津幡町立中条小学校
宇宙へ続く道	下村 紗世	6年	越前市服間小学校
未来・夢のワールドランド	武井 美晴	6年	私立加藤学園暁秀初等学校
ひびけ!とどけ!メロデー!学園	谷口 諄	6年	江南市立草井小学校
空とぶ帆船で空中都市へ行こう!!	河原 遼太	6年	姫路市立広畑第二小学校
いろんな生き物の意見を聞いて作ってます	西原 崇貴	6年	桜井市立纏向小学校
工事現場	三上 さち	6年	浜田市立三隅小学校
未来の町ー住んでみたいー	二宮 凜人	6年	松山市立湯築小学校
エコ・タウン	安平 奈央	6年	松山市立桑原小学校

作文の部

さくばんのび

最優秀賞 (国土交通大臣賞)

守り続けたい椎葉村

甲斐 奈菜

宮崎県椎葉村立松尾中学校一年

私たちがあの被害にあったのは、今から三年前のことでした。平成十七年、夏。台風十四号が私たちの住む椎葉村をおそったのです。

私たち家族は、安全な親せきの家に避難をしていました。静かな家の中から外を見ると、激しく雨が降っており、強い風が木を横に激しく動かしていました。

次の日の朝。親せきの家の電話がなりました。その内容は、私たちの家に行くまでの道路の真ん中に大きな穴があるというものでした。実際にその場所まで行き、穴から下を見てみると川が見えました。私たちが見ている間も、どんどん道路がくずれていっていました。私はこれを見た時、ひどい、ここまでやるなんてと思いました。一本道なのでどうしようもなく、おばの家に戻りました。

雨や風が少しずつおさまると、地域の人で今までは山

だった所に道をつくりました。土をほって、石をどけて、私たちが通れるようにしてくれました。どんなに疲れても、作業が思うように進まなくても、だれ一人あきらめずに、汗を流しながら、どろまみれになりながら、道をつくり続けてくれました。そのおかげで私たちは家に帰りつくことができました。

しかし、ようやく帰り着いた私たちの家に、とんでもないことが起きていました。

家に入るまでに階段があります。その階段がくずれていたのです。家に入るとあちらこちらにひびがあり一歩動く「みしっ」という音が聞こえました。お風呂にもひびが入っていました。

頭がくらくらしてきて、恐くてたまりませんでした。両親はとても残念そうに頭をかかえていました。

最優秀賞 (国土交通大臣賞)

家の一部を作りかえることになりました。できるまでは、仮設住宅で暮らしていました。一気に生活ががらりと変わりました。家はせまくなり、お風呂とトイレは同じ部屋にありました。慣れない所で生活することは、どんなに不便かを知りました。

家の工事は、大工の祖父と、親せき、知り合いの方々が手伝ってくれました。母、父も仕事が休みの時は家を作ります。

でも私たち兄弟はずっと見ているしかできませんでした。おとなのように私たちは力がありません。何かしたい。できることがあればやくにたちたいと思いました。

あの台風から四年がたち、私たち家族はもとの家で暮らしています。これまでいろいろと手伝ってくれたみなさんにとっても感謝しています。私たちにとって道路はなくてはならない存在です。道路がなくては、家に帰ることもできません。道路がなければ行きたい所にも行けません。私はこの経験を通して、道路があることでどこにでも行ける、山道を通らなくても行ける、ということを改めて考えました。そしてそんな道路にありがたさを感じました。

今、椎葉村はとても平和です。でも、またいつ前のような事が起きるかわかりません。私たちに出来ることは、私たちの住む椎葉村をみんなで守ることです。

どんなにつらい事があってもみんなで支えあいながらがんばりたいです。

みんなの笑顔がきえないように。

最優秀賞 (国土交通大臣賞)

子供のための安全な公園づくりとは

小泉 花織

石川県金沢市立浅野川中学校二年

私が小学生だった頃に、公園の遊具で子供がケガをするという事故が多発したことがあった。その結果、公園から遊具が失なわれていった。子供達の安全を考えての施策なのだろう。だが、私はどうしても遊具をなくすことが良い方法とは思えない。他に、もっと良い方法はないのだろうか。

私も、小学校の中学年の頃に、遊具で遊んでいてケガをしたことがある。「うんてい」という遊具で遊んでいた時、足を滑らせて落ちたのだ。幸い、それは大したケガではなかった。だが、その数カ月後、私に通っていた小学校の一年生が遊具で遊んでいて死亡するという、最悪な事故が起きた。ランドセルを背負ったまま遊んでいたため、ランドセルが「うんてい」に引っかかって首がしまったのだ。その事故がきっかけで、周辺の公園には遊具で遊ぶ時の服装

の注意をよびかける看板が設置され、「うんてい」は取り外される事になった。私がよく遊んでいた公園の場合、「うんてい」だけにとどまらず、その後も「危険」と思われる遊具は次々と取り外されていった。だが、注意をよびかける看板を設置したなら、遊具をなくす必要はあるのだろうか。確かに、危険な遊具を取り外すことによって、公園の遊具での事故は聞かなくなった。だがそれは、単に遊具が減って公園の利用者数が減少したからではないのか。私は、「安全な公園をつくる」という事は、公園の利用者数の増加につながると思っている。だが、実際はどうだろうか。私は夏休みに入ってから何度かその公園を訪れた。だが、いつ見ても公園の利用者は少なく、以前ほど活気は感じられなかった。これではまるで逆ではないか。現在、子供のインドア化が社会問題としてあげられる。だが、私はこれ

最優秀賞 (国土交通大臣賞)

では仕方がないと思う。公園の遊具をなくすという事は、公園の安全性を高めるだけではなく、同時に子供達の遊び場を奪う事になるからだ。「子供達は公園から遊具がなくなっていく事を望んでいるのか」気になった私は、実際にそれを子供達にきいてみた。その結果、「望んでいる」と答えた子供はいなかった。私の妹はよくその公園を利用するのだが、「昔より楽しくなくなつた。遊具が減つたらつまらない。」と言っていた。そして、「遊具がなくなつてほしくない。」とも。私だつたら、遊具が減つてつまらなくなつた公園で遊びたいとは思わない。そして、そんな気持ちの子供のインドア化につながっていくのだと思う。

やはり私は、公園から遊具を取り外すのは良くないと思う。公園が安全になる事は事実だが、それにともなつて公園の利用者数も減っていく事もまた、まぎれもない事実だからだ。大人には、子供達の安全のため工夫をこらす義務はあつても、子供達から遊び場を奪う権利はないと思う。事故が起きたらすぐに遊具を取り外すのではなく、事故の過程を知り、その原因を取り除く事が大切ではないだろうか。そうでないと、本来の意味で大切な公園はつくれないと思う。まずは、周囲の大人達が子供に安全をよびかけて、一人一人が正しい使い方を身につける事が先けつだろう。そうすれば、事故はしだいに減つてゆくのではないだろうか。

最優秀賞 (国土交通大臣賞)

この夏を通して見つめる国土

川島 翔子

福岡県福岡市立香椎第三中学校三年

「あ、あれもやん！」

「あ、あっちも！」

市バスに乗って、町を観光中。福岡ではない。京都の町である。昨日まで福岡にいたなんて、まるでうそのようで、京都に訪れているという現実についていけない私。そんな私の目玉は、あっちへきよろきよろ、こっちへきよろきよろ。バスに乗ってから、絶えることなく動きっぱなしだ。

「あ、あれもやん！」

の、あれとは、コンビニやパチンコ店といった建物のことだ。これら建物がどうだというのか。それは、とにかく看板が低い、色が地味、パチンコ店なのにネオンがないのだ。私はそれを見た時、なぜなぜだらけだった。

「どうして建物の色が地味なの？」

「どうしてあんなに目立たない低い位置に看板をつける

の？」

「あれは本当にパチンコ店なの？」

答えは、京都の土地にあった。そう、ここは観光地。日本の歴史を体じゅうで感じるができる地で、外国からの来客も多い観光地なのだ。京都のような文化遺産が残されている地では、派手なコンビニやパチンコ店などで、美しい町並みや日本の古くからの文化の風を失ってはいけない。守っていかなければならないのだ。低くて地味で、ネオンもないような建物たちは、守るべきものあつての姿だった。このことに気づいたのは、母に言われてからだ。この出来事以来、他に町並みを守ろうとしていることなどを探し、国土について考えるようになった。

その次の日には私は新潟を訪れていた。もともと父と母の実家は新潟であるが、父が仕事の都合上単身で京都で暮

最優秀賞 (国土交通大臣賞)

らしているのです、最初は京都に滞在し、そこから車で新潟に旅立った、というわけだ。新潟のいとこの家に訪れたのだが、以前は、家の横一面は全て田んぼで、稲穂がきらきらと揺れていた。ところが、この夏に訪れた時には、その田んぼの四分の一程度が、大きな広い駐車場に変わっていたのだ。私も、家族みんなが驚いた。

少しといえど、田んぼはなくなってしまうことに変わりはない。でも、それによりとても便利になったらしい。いとこの家の近くに市役所がある。今までは市役所にも、その近くにも駐車場がなく不便だったが、今は新しくできた駐車場を利用できるので、役所の人や役所に用がある人は大助かりだそう。私の家の車も、いつもはいとこの家の前にとめていて、隣の家の人が車を出す際、邪魔な時はどかしていたのを、駐車場にとめることとする必要がなくなり、便利さを実感した。

その駐車場になった光景だけを見ると、また自然の緑が減ってしまった、と思っただけれど、よく考えると、不便だった生活を支えてくれていたわけである。また、その駐車場はいとこの家のすぐ横にできたのであるが、駐車場と家の間に、溝があり、水が流れているので、駐車場に行くには少し足を伸ばして飛び越さなくてはならない。これに対して私は、この溝がなかったら、飛び越さずに楽に通れるし、駐車場から車ででる時にいとこの家の前を通り抜けられるから、近道ができるのに、と思った。でもこの溝は、他の田んぼに水を運ぶもので、溝を流れる水は稲穂たちの命の源だった。それに、もしいとこの家の前を通り抜けられなくても、道が細いし前を通られる家の方は迷惑かもし

れないし、トラブルになりかねない。

自分でいろいろと考えた末、この駐車場は自然環境と交通の利便性が共存できているのではないかと思う。

京都で見た建物の低さなどに気がついた出来事も、新潟での新しい駐車場の出来事も、どちらもとても大切な私たちの国の国土に関すること。そして、どちらも私がこの一生に一度の夏に、普段住んでいる地とは異なる風景に出会い、触れたことで気づけた貴重な経験だったと思っている。

私は今まで国土について考えたこともなかったし、「国土」ということがふと頭をよぎることもなく、いわば「遠い存在」だった。でもこの夏の経験から、国土に関することとてこういふことだ、とわかり、身近なものだということにも気づいた。国土を守るのは大切だと思っただけ、交通の便は私達の生活に必要不可欠なので、どちらについても自分の考えをもったら、その一歩先まで見送ること。そうすることで、さらに深く考えることができ、現在どうしてそういう状況なのか、意図を感じとることができるかもしれない。

だから今度は、私が住んでいる福岡の地で国土と交通について考えていきたい。

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

公共交通と私達の未来

小松 樹英

茨城県立並木中等教育学校一年

「明日からどうなってしまうのだろうか…。」私の住んでいる地域を走っていた鹿島鉄道が平成十九年三月三十一日に廃線となってしまった。

父の転勤により、東京から茨城に引越してきた。できるだけ交通の便が良い地へ、と鹿島鉄道沿線の新興住宅街に引越してきたので残念でならなかった。通勤で利用していた父の生活スタイルも一変した。

今では線路もはがされて、雑草が生いしげっている。その姿は殺風景で、もの淋しい風が吹いている。

街にも変化があった。廃線後、土地の価格が下がり、広大な空地に家が建ち始めたのだ。鉄道を利用する人が少ないから廃線となったのに、なんて皮肉なことだろう。

代替バスが運行されているが、問題が山積みである。まず時刻表通りの運行が出来ていない。そのため、多くの人々

がマイカー通勤へと変わっていった。

世界的に温室効果ガス削減が叫ばれている昨今なのに、私の街を含め、多くの地方はそれに逆行している。一家に二台はあたりまえ。大人一人に一台ずつという家もある。これでは温室効果ガス削減しよう、だなんて考えられない。

もし近場に買い物に行くならば、徒歩や自転車で行けばいい。健康になるし、環境にもいい。だが、個人で温室効果ガスを減らす努力には限界がある。

そこで、未来の環境を考えた地球規模の街づくりを實行していかねばならない。そのために、公共交通機関を軸とした街を大胆に作っていかねばならないと私は思う。

現在、富山市ではLRT（ライト・レール・トランジット）という新型の路面電車が運行されている。

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

普通の電車と比べ、スマートな車体のため空気抵抗が少なく加速がしやすい。路面電車のため既存の道路を利用できるので、多額の資金は必要ない、というメリットがある。さらにLRT専用道を設置することによって、定刻運行が可能となる。

こんな路面電車が日本全国を網羅したらいいなあ。どんなに便利になるんだろうと思った。

もつと言うと、お年寄りやベビーカーを利用した子連れの方、車イスの方にも安心かつ快適に使えるよう、ユニバーサルデザインの車両がいい。また、路線は駅・市役所・図書館・病院・スーパーマーケットなど多くの停留所があるともつとよい。できれば、地域住民が大勢参加して、どこに停留所を作るか、どのようなルートにするかを話し合う場があるといい。そうすれば、地域から街へ、街から市へ、市から県へ、県から日本全土へと本当に必要な路線が出来る上がる。

問題は運賃だ。高過ぎたら、乗る人は少なくなる。低過ぎても会社の採算が合わなくなってしまう。しかり利用客のことを考えると、安ければ家族連れから通勤・通学など子供からお年寄りまで、多くの人が気軽に利用することができる。七十五才以上には無料パスを支給するのもいいだろう。そうすれば、孤独になりがちなお年寄りだって、街に出るのが楽しみになるだろう。

こんな夢の話でも、実現しようと思えば、可能であると思う。地球温暖化には待ってとは言えない。

私の親が子供だった頃は、携帯電話は夢の話だったそう。もしかしたら、私が大人になる頃には、公共交通を中

心とした交通網の発達した、環境や人にやさしい社会が実現しているかもしれない。

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

水のある生活

茂木 直人

群馬県前橋市立箱田中学校一年

五月に僕の家では、水が自由に使えなくなる事件が起きました。壁の中の水道管が割れ水もれをしたのです。他の管も古くなっていてそうで、すべての水道管を取りかえしました。部品が、集まって工事が始まるまで、水を使うときだけ、元栓を開き、それ以外るときは元栓を閉じ、漏水を防ぎました。

水を使っているときは、割れた管から水がもれるので、水を使う時間もできるだけ、短くしました。

まず、お風呂では、シャワーを使わず浴そうのお湯で、短時間ですませるようにしました。トイレは、ペットボトルにためた水を適量流すことにして、一回に流す量を少なくしました。歯みがきるときは、コップに水をくみそれを使いしました。洗面のときは、水を流しっぱなしにせず洗面器にためた水で洗いました。洗濯も、お風呂のお湯を使い

ました。

台所では、水を無駄に使わないことと、水の汚れを減らすようにしました。料理では、大きな鍋にためておいた水を使う鍋に入れて移して使いました。野菜をゆでる時は、電子レンジを使い水を使わないようにしました。鍋や皿など汚れたものを洗う時は、シャツやタオルを切ったものによくふきとってから洗いました。

家族みんなで、水の無駄使いをしないように、協力して水の大切さを感じた出来事でした。僕は、以前に汚れた水を、魚が住めるきれいな水にするために、たくさんの方が必要なことを本で見ました。みそ汁一杯を流すと、それをきれいな水にするためには、浴そう四・七杯分の水が必要が必要です。天ぷら油五百ミリットルを流すと、浴そうの水は五百杯なければなりません。僕達の生活では、洗濯や掃除

優秀賞（国土交通事務次官賞）

でも水をたくさん使い、水を汚します。

その水は、そのまま川に流すと、川に住む生物や下流の人たちの環境を悪化させることとなります。だから汚れた水は、きれいにして戻してやらなくてはいけません。

汚れた水をきれいにする方法は、下水道と浄化そうです。下水道は、僕の住んでいる都市部では、広く使われています。広い範囲の排水を集めてきて、処理場で汚れを細菌で分解させてきれいにする方法です。また、下水道のように、大きな施設が造れない地域では水洗トイレと家庭から出るすべての排水を、浄化そうで、きれいにしています。

でも、水をきれいにする方法があっても一番大切なのは、水を無駄にしないで水を汚さないことです。川を汚す原因には、生活排水や工場排水がありますが、家庭からの生活排水のほうが、川を汚しています。一軒一軒の家庭から出される排水は、わずかですが、毎日たくさん家庭から出される排水の量は、とても多いです。「うちだけならいいか」「めんどくさいから、」という一人ひとりの考えが、生活排水を増やし、汚した水をきれいにするために、多くの水を使うことに、なってしまうのです。

最近、大雨で土砂くずれが多く発生しています。山に降った水を木々は、たくわえ自然のダムとなります。そこから流れ出た水を僕達は、生きるために使っています。災害が起きると、水は自由に使えなくなりします。

水の使用を制限したり、少しの量しか使えなくなることは、この間の漏水工事の間、僕の家で体験したことを考えると、とても大変です。僕の家では、あの漏水の後も、お風呂や歯みがき・洗面での節水と、お風呂のお湯を使った

洗濯を、継続しています。

水の惑星と呼ばれる地球ですが、私達が利用できる水は、地球上全体の水の量のわずか〇・八%です。いくらでもあるように思える水ですが、使える量はごくわずかです。

これからも僕達は、毎日節水や水を汚さないことに努め、水のある生活をしていけるようにしたいと思います。

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

交通ICカード一枚で
世界中を旅する日を夢見る

岡野 眞利

奈良県河合町立河合第二中学校一年

私は、交通ICカード一枚で世界中を旅する日を夢見る。なぜなら、今年の夏休みに家族みんなで東京デイズニerlandに行ったけど、事前に立てていた時間のおりに行動が出来なかったからだ。その原因の一つに交通機関の乗りつぎがある。私の住んでいる場所は奈良県。自宅から、まず最初にバスに乗る。交通ICカードは導入されていないが、バス会社（奈良交通）とJR西日本とは一枚の定期券が発行されていない。現状では、JR乗車定期と奈良交通定期の交通ICカードの二枚を持つ必要がある。

心待ちにしていたデイズニerlandに行く日、私のお姉ちゃんが交通ICカードのバス定期券を忘れてしまった。中々、ICカードが見つからなかった。JR西日本ICカードは持っていたが、定期券を持っていなかったの

お姉ちゃんは後悔してお母さんも同じで後悔していた。お父さんは、あきれ顔だった。何が一番もったいないかと言えば、「時間」とお父さんがいつていた。家族旅行が、電子カードで最初につまずいた。暑い中、乗車待ちをしている他のお客さん、運転手さんにも迷惑をかけてしまった。やっとJR王子駅に着いた。ここからは、新幹線の乗車駅までの交通電子カードがあるのでスムーズに行けた。人の流れも混んでいることを考えれば順調に行った。

東京駅に着いた。

東京メトロ西船橋駅に行くための切符の購入が必要になった。お母さんがサイフから小銭を探す。少し時間がかかる。自動改札機を通っている人を見ると見たことのない「緑色の交通電子カード」、「銀色の交通電子カード」を持っている人がたくさんいた。やっぱり、そのカードを持って

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

いる人はスムーズに進んでいた。

もう一つ発見があった。缶ジュースを買おうとすると電子カードで購入が出来る。一枚のカードで小銭の代りが出る。とても便利だと思った。お父さんに聞くと物を購入するとポイントが貯まる仕組みもあるそうだ。ものすごく魅力を感じる。

そこで私は交通電子カードについて調べてみた。首都圏の私鉄・地下鉄・バスで使えるPASMO(パスモ)、関西を中心に西日本や中国東海地方の私鉄・バスで使えるPiTaPa(ピタパ)。福岡市圏ではnimoca(ニモカ)。JR九州ではSUQOCA(スゴカ)、福岡市圏地下鉄の「はやかけん」が二〇〇九年にスタートする予定。まだある。札幌市圏ではJR北海道のkitaca(キタカ)が今年の秋にスタートする予定。高松市のIrucca(イルカ高松琴平電鉄)や松山市のICいっカード(伊予鉄道)など、すでにサービスが開始されているようだ。

一枚のカードで地域内の鉄道・バスに乗ることもできるようになってきている。また、地域を超えた相互利用化も進んでいる。全国に地域会社を持つJRグループが先行して、既にSuicaとICOCA、TOICAの相互利用が始まっている。東京から関西や東海地方に遊びに行った場合は、Suicaを持っていけば関西や東海のJRにそのまま乗れる訳となる。

いろいろ調べて見ると全国の相互利用化の中心にあるのはJR東日本のSuica。全国のどこに行くにも地元の交通電子カードだけではなくSuicaを持っていくことがとても大切となってくる。

だから私はこの交通ICカードを国と国の境を越えたものとして使うことができるようになれば、文化、ものの考え方が異なる国であっても一枚のカードで電車・バスに乗れる日が間近にせまっていると思う。その日を心待ちにしている。そのことが、時間という共通の考え方をじくとした生活を築いていく「最初の第一歩」のためのとても大切なツールと考える。

その電子カードが出来ればどの国でも一枚で旅が出来る。もしかすると未来の旅行は月や火星や木星にも行くことが出来るのではないか。…その日を心待ちにしている。その日が来れば「時間」のムダ使いもなくなり、みんな心から充実した「時間」をおくれることに違いない。

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

地震に強い街づくり

渡邊しず代

宮城県名取市立第二中学校二年

今、世界中のあちこちで、大きな地震が起きています。自分が住んでいる宮城県でも、近々九十九パーセントの確率で地震が起これと言われています。

私の父は、口ぐせのように、可能か不可能か分からないけれども、一気にプレートがずれて大きな地震になるよりも、少しずつ小刻みにずれて、大きな地震からまぬがれば良いと言っています。私もその話を聞いた時は、(そうなるってほしいな。)と思いました。

私はまだ大きな地震を実際に経験した事がありません。なので、地震がいつ来るのかと、今とても恐れています。もし地震が来たとしても、家の中の家具や、食器棚などが倒れたり、壊れたりしないように対策はきちんとしてあります。

地震が来たなら、倒れてきそうな物の前にいないことや、

すぐに安全な場所に避難することなどが大事です。例えば外に逃げたり、周りに物が無い所に避難したりするなど、身の安全を守るためには、このような事をするべきだと、私は思っています。

去る六月十四日に、岩手宮城内陸地震が起きました。その時、私は自宅で寝ていて、最初は気付きませんでした。でも、突然強い揺れを感じたので、あわてて起きて階段から降りようとなりました。でも、すごい揺れだったので、つかまって降りるのがやっとで、なかなか外に避難する事が出来ませんでした。

地震が起きた後は、余震が何度も続きました。余震が来るたびにビクビクして、落ちつきませんでした。

栗原市では、その後も余震が続き、行方不明の方も見つかっています。自宅に戻れず、避難場所での生活も長び

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

きました。精神的にも落ちつかない状態が続いたことだと思います。

私自身も宮城県沖地震によって、いつ同じような状況になるかれません。それで、考えたのですが、豊かで住みよい国とするためには、地震などの災害に強い国にする必要があるではないでしょうか。

以前、地域で大掛かりな訓練が行なわれました。消火器の使い方やけが人の救護の仕方などを教わり、自衛隊のヘリコプターも出動して、本格的な訓練となりました。近所の大人の人は、真剣に話を聞いて、実際に行動し、一生懸命に参加していました。このような地域の皆さんと、触れ合う事はとても大切な事だと思います。自分が本当に、困った時に近所に顔見知りの方がいると、心強いからです。震災で親と離ればなれになった時、不安になっている自分に対して、地域の皆さんの助けは自分に勇気を与えてくれるはずです。また、自分も人に頼るばかりではなく、困っている人がいたら、自分の出来る範囲の中で、助けたいと思います。

震災が起きた時の心配な事のひとつに、水や食量などがあげられます。人間は、どんな状況においても、お腹がすきます。トイレにも行きたくありません。眠くもなりません。家に帰りたくても戻れず、避難場所でも何日も生活しなければなりません。避難所では、一人一人の自由が制限され、我慢をしなければいけない事が、たくさんあることでしよう。

普段、何気なく使っている電気やガス、水道も制限され、不安になるかもしれません。でも、自分だけが我慢するの

ではなく、同じ思いをする人が、大勢出てくると思うので、そんな時こそ地域の皆さんと協力し、助け合っていかなければならないはずです。そのためには、普段から震災について、良く知り、良く学び、その心構えをしておく事が、大切なのだと思います。また、そういう災害に備えた街をつくっていくべきです。

安心して暮らせる豊かな国とするために、一人一人の心がけて、地震に強い街づくりを目指していくべきだと私は思います。

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

新幹線を何度も利用して気づくこと

澤入 美里

静岡県私立不二聖心女子学院中学校二年

私の祖母は、以前から膝関節に痛みがあり、歩行や立ち座りが不自由だ。正座や長い距離を歩くことも苦手で、まして旅行などほとんどでかけたことがない。

「私達が住んでいる仙台まで遊びに来てほしいと頼んでも、「私は膝が悪いからね」が口癖で、「新幹線なら仙台まではずぐだよ。」と何度話しても出かけてこようとしない。これまで新幹線で仙台まで来たのは、私が生まれた時と、妹が生まれた時のわずか二回だけだ。日常生活の移動を車に頼り、ひとりで生活している祖母にとって、電車に乗って移動するということはとても負担のようだ。

今、私は寄宿に入り生活している。仙台までの移動は、新幹線を利用する。東海道新幹線と東北新幹線の二種類の列車を乗り継ぎ、三島から仙台に戻る。確かに、乗っている時間はそう長くはない。でも、毎回経験してみると、祖

母が新幹線を乗り継いでやってくることは、けつして楽ではないことに気づかされる。いくつか紹介したい。

まず、人混みに圧倒される。誰もが早足で、「お先にどうぞ」というような雰囲気は無い。のんびりと歩いていては、邪魔になるようで何だか申し訳ない気持ちになり、私もつい早足になる。これでは、祖母も気後れがしてしまうし、ひとりで旅に出る気持ちも削られるのもわかる気がする。

また、列車とホームの間の数十センチの隙間が怖い。その中に吸い込まれそうな気がして、私も小さな頃から母に手を取ってもらってホームに降りた。足の不自由な祖母には、この隙間が不安に違いない。つい先日、お年寄りがとても慎重にこの隙間を超えていた。私は、声を掛けることはできなかったが、祖母を見ているようで「慎重に慎重に」と心の中でつぶやいた。在来線(東海道線)では、もっ

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

とこの隙間が広く感じた。この隙間を無くす事ができないだろうか。

さらに、階段やエスカレーターがほとんどで、ホームにおりてもエレベーターがどこにあるのかよく分からない。人の流れに乗ってしまおうと、そのまま階段やエスカレーターに向かつて歩いていくしかない。私が赤ちゃんだった頃、母が駅のホームでエスカレーターの場所がわからなく、ベビーカーを持ち上げて階段を下りたことが何度もあったと話していたことを思い出した。

そこで、列車がホームに着くときに、「エレベーターは何両目付近にあります」とアナウンスがあったらと考える。車いすを利用する人々

だけではなく、足の不自由な人たち、高齢者、ベビーカーを押すお母さんらに、この情報は必要なことだと思う。ただ、この情報を得ると、エレベーターを必要としない人までがそこに集まっては、本末転倒だ。スーパールの車イス用駐車場に、健常者の人が平気で車をとめ、買い物に行く姿を見かけるが、アメリカではこの行為はスピード違反より重い罰金だそうだ。人の心にも、精神のバリアフリーが今こそ求められる時だと思う。

最後に、ホームからの転落防止用のフェンスや柵がどの駅にも設置されたら安心だ。駅によっては、すでに設置されている駅もあるが、転落事故や悲しいニュースが後をたたないのを見るにつけ、早急の対策が必要だと思う。

確かに現在、新幹線のホームでは、駅員の方が体の不自由な方を親切に介助したり、車いすで乗車できる車両があったり、優しい心遣いが、色々なところに見られる。社

会生活弱者の方への物理的な障害を取り除くバリアフリーの工夫は、公共の場では随分となされてきている。しかし、私のようにしばしば新幹線を利用する乗客から見ると、改善の余地があるようだ。世界一安全と言われる新幹線が、世界一のバリアフリーの機能を持った交通手段に進化する事を強く願う。

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

未来の道づくり

園田 星

三重大学教育学部附属中学校二年

僕の趣味は地図をみることだ。どれだけみても飽きないし、みる度に新しい発見がある。

僕の将来の夢は、この趣味を生かし国土交通省で地図と関わりながら、未来の街づくりをすることだ。

今、僕の住んでいる町にはたくさんさんの危険が潜んでいる。まず一つ目に歩道の狭さが挙げられる。僕の家近くの道路は交通量が多い道路で車もスピードを出すので、たまに自転車や歩行者が車と接触しそうな場面を目撃する。これは単に不注意とかの問題ではなく、歩道の狭さにあるのだと思う。

二つ目の問題点に路上駐車が挙げられる。これは一つ目に挙げた歩道の狭さにも大いに影響している。狭い歩道の上に車を駐車されたら歩行者は車道から車を回りこむ形で通らなければならない。このときに車がすぐ横を通るので

非常に危険な思いをする。

三つ目の問題点には道路の構造が挙げられる。僕の家近くの交差点では道路が「く」の字の形に折れ曲がっている箇所がある。これは、特に大型トラックが曲がる時に曲がりにくい。さらに見通しが悪いので小学生の自転車の集団が勢いよく飛び出す所に車が曲がって来る所を見ると、思わず見ている方がヒヤっとしてしまうことがある。それだけではない。その「く」の字の形に折れ曲がった箇所路上駐車がしてある。こうなるとただでさえ見通しの悪い箇所なのに歩道が塞がれて車道から回り込まなければならぬのでとっても危険だし、さらに自動車に向こう側から来ても全く見えないのでとてもこわい思いをして通らなければならない。

そして四つ目の問題点は車のスピードの出し過ぎだ。車

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

道の幅は歩道の割に広いのでかなりのスピードを出す車がいる。ややカーブがかかっている道路でも車がスピードを出すので自転車で走るとぶつかられそうになる。

さて、これらの問題をどのようにして解決するか。いくつかの手段の中で僕が考えたものの一つに「コミュニティ道路」がある。これは道路をジグザグにして歩道を広めにとることによって、車の速度をおさえることが可能になる。さらに、ジグザグの道路の出っ張った部分やへこんだ部分に植樹や花だんを作って緑化できるといったメリットがある。これなら人と車がすれすれといったことはないだろうし、人々もゆつたりと歩くことができるだろう。これを商店街に起用すれば、人々が歩きやすいので人が集まる。そう、え、商店が活気づくであろう。

その他に「歩車共存道路」や「スムーズ道路」がある。前者は車道の一部を狭くしたり、盛り上げたりした道路のことだ。これもまた車の速度を落とせる効果がある。

後者の「スムーズ道路」だが、これは歩道と車道間の段差をなくし、そのかわりにゆるやかな坂を利用する。この道路のメリットは車道から歩道をはさんで生活道路などに入るときに段差がないので車が入りやすい。さらにそのときにゆるやかな坂を車が通るのであまりスピードが出ない。そして、歩行者は段差がないので高齢者にも負担がかかりにくい設計となっている。またガードレールの代わりに生け垣等を利用したり植樹をしたりして緑化を進めたり、また歩道と車道の間には細い水路を作ったり、そこに魚を放流したりしてもよいと思う。このようにして、その街の特性に合わせて道路を設計したりする必要があると思

う。さらに、植樹運動や生け垣の利用によって安全や利便性だけでなく、環境によく、そして人間と人間とその他の生物が共存できる心地よい道路ができれば、町全体が活気づくと思う。

ただみんなが必要とする道路ではなく、思わずこの道を通りたいと思える楽しくて安全かつ環境によい道路がこの僕の住む町にできたらいいなと思う。

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

失って得る幸せ

今村 美穂

佐賀県立香楠中学校二年

『ここにも新幹線が走ったらいいのにな。』当時、新幹線に乗るのが好きだった私はそんなことを思っていた。その数年後、私の家のすぐ近くで本当に新幹線工事が始まった。何も知らない小学生だった私は、わくわくしていた。「美穂が高校生になるぐらいには、ここに新幹線が通るんだよ。」家族からそう言われるたびに、期待がふくらんだ。『もし、この近くに駅ができれば、お店とかマンションができて、町に住む人が増えるかもしれないなあ。小学生が増えればいいなあ。』そんな想像をいつもしていた。考えれば考えるほど、早く新幹線が通ってほしいという思いでいっぱいだった。

でも、実際に工事が始まってみると、困ることがあった。祖父やいろんな人の田んぼを狭くしなければならなかった。さらに、通学路が道路のすぐ隣でガードレールがない

ため、トラックなどの大型車両が通り出すと、登下校は危険なものとなった。また、駅も私の家からは少し離れた所にできることが分かり、少しがっかりした。そして私は、重大なことに気付いた。それは、毎朝見ている朝日が見えにくくなるということだ。私は小学一年生の時、通学路にできる走る車の影を使ったおもしろい遊びを教えてもらった。登校の時はよく、その遊びをみんなですしていた。でも、線路の柱で余計な影ができてしまえば、その遊びはできなくなってしまう。大きな工事に比べれば、私個人の問題なんてどうでもいい話だ。だけど私は、その遊びのおかげで大嫌いだった長い一直線部分の通学路が楽しくなったし、遊ばなくなっても毎日きれいな朝日を見ながら歩くのが好きだったから、悲しくて仕方がない。何かを得るには何かを失わなければいけないのか、と残念だった。現実には私

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

の想像から大きくはずれていった。でも、逆に考えてみるとどうだろう。何か失うものがあるから、その後には失ったもの以上に得るものがある。私にとって、失ったものは大きい。だからその分、得るものもつと大きいはずだ。私は自然を大切にしようという気持ちを得た。やさしい工事の人達に出会えた。先生達はいつも「登下校は気をつけてね。」と私達を気遣って下さった。たくさんの人達のやさしさを感じた。登校班の班長だった私は、『通学路がさらに危険になるから、私がみんなを守らなきゃいけない。』と思い、班長としての責任を感じた。もし工事がなかったら、私は環境のことを深刻に考えることはなかったと思う。責任感とかもなかったかもしれないし、登下校でも、私までぶざけて誰か事故にあっていたかもしれない。何より、工事の人達のやさしさ、あたたかさを感じることはなかったはずだ。妹は帽子を溝に落としてしまったとき、工事の人に取ってもらったそうだ。もし工事の人がいなかったら、取ってくれる人がいなくて、最悪の場合は誰かが怪我をしていたかもしれない。渡るのが危ない道に信号や横断歩道ができることもなかったはずだ。それに近くに駅ができなくても、昔考えたようにこの町に人が増えるかもしれない。だけど、このままでもいいような気がする。いつも静かでもあたたかくて緑がいっぱいあるこの町のほうが、やっぱり好きだから。

何かを失うということは悲しいことだ。でも失ったもの以上にたくさん得るものがある。幸せがある。それは、これから先進んでいくのに大切なことだ。私もいろいろ失った分たくさんさんのものを得て、この町はどんどん安全になっ

ていく。

あれから二年、まだ新幹線の線路工事は続いている。線路が完成して新幹線が通ったとき、また新たに得るものがあり、この先も新しい発見や出会いがきつとあるはずだ。そしていつか、新幹線に乗って見慣れた景色を別の目線から見れることを楽しみにしている。私達の町が幸せになることを願いながら。

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

あつたかみのある道路

工藤華乃子

青森県弘前市立第三中学校三年

私が住む弘前市は「お城と桜とりんごのまち」としてよく知られています。「古都弘前」とも言われ、約四百年にわたり歴史を刻んだ城下町でもあります。古くからの街並みやその当時の町名が残っています。そして、この古い町名の由来を記した標柱が、市内のあちらこちらに立てられてあるのです。

私が通う中学校の近くにも「榊形」「松森町」の町名があります。「榊形」とは、弘前城下の道路で、二重に角をつけた道路のことなのです。これは敵の侵入を困難にする目的で、直進を防ぐために「榊形」にし、町の出入口などに多く設けられました。ここの榊形は南東入口の守りとして作られました。

「松森町」は、松の木の手入れをする人達「松守」を、この辺りに住まわせたことから松森町と呼ぶようになった

のです。この松とは、参勤交代の通路となった碓ヶ関街道の両側にあった沢山の並木松のことです。

弘前は古くからの町名、そしてその街並みが残っていて素晴らしいと思う反面、道路はとても狭くて、複雑なところもあるので、迷うことも度々あります。

青森市のように、二車線、三車線の道路は数えるほどしかありません。大きな道路とは違い、歩行者同士がとても近くに感じられ、あつたかみのある道路がたくさんあります。

先日、そんな道路で、ちょっとした出来事がありました。市内には、まだりんご畑に隣接する通学路がいくつかあります。道路の一方はりんご畑、もう一方は住宅とスパー台が並び通ります。この道路の道幅はとても狭く、車二台がやっと通ることができぐらいです。歩道はりんご畑

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

側にしかありません。スーパー側の歩行者は車が通るとき、側溝のフタの上を歩くことになるのです。

ある日、この道路を父の車で通りました。私の父は、ものすごい安全運転です。急発進、急停車、急加速はしません。車間距離も十分とり、追い越しもしません。クラクションも、相手がびっくりするといけなからと言って使いません。スピードを出しすぎている車や、ピツタリくっついて走っている車が来ると、脇に寄り先に行かせてしまいます。そんなときはいつも、

「学校でしっかり勉強しないと、こんなふうには人の嫌がることを平気でする人になるよ。この田舎にいて、こんなにスピードを出すことより、もっと時間に余裕を持って出ればいいことなんだから……。」
と言います。

そんな話を聞きながら走っていると、スーパー側の車道を八十歳くらいのおばあさんが歩いてくるのが見えてきました。小走り気味なおばあさんの履いているサンダルが、側溝のフタとフタの間のすき間にはさまり、顔面から転ぶのが見えました。すぐ父に教ええると、父はびっくりして、

「何？どうしたの？」
と、バックミラーで今通り過ぎた場所を見て、大急ぎで車をスーパーの駐車場へ入れました。

「お姉ちゃん、携帯電話持ってきて……。」
と車から飛び出し、おばあさんのところまで走っていきました。

少し前を歩いていた女の人や、すぐ横を走っていた車の

人も降りてきました。転んだおばあさんは、すぐには起き上がれず、ゆっくり体を起こして、その場に座りました。目の下と左手から血が流れていました。

「大丈夫ですか？この近くの方ですか？ご家族の方へ連絡をとりましたらどうか？」

「救急車を呼ばなくても大丈夫ですか？」

「ご自宅まで送りますか？」

「立てますか？歩けますか？」

と、話しかけられる度に、

「迷惑かけてしまつて申し訳ありません……。」

と何度も謝っていました。私の祖母も同じくらいの年なので、とても気の毒に思いました。もし私が一人であったときに、こんなことがあつたら、同じようなことができたのでしょうか。

私がびっくりしたことは、すぐにたくさんの人たちが、駆け寄ってきてくれたことです。そして田舎はあつたかい人が多いなあということを感じることができました。

この、いつもは狭い、狭いと話している道路、でもこの狭い道路だからこそ、通るとき全てが見通せたのです。これがもし大きな道路だったら気がつかなかったかもしれない。

この道路は、人の笑顔が見え、いろいろな人と心が通い合い、人の優しさに触れることができる道路なのです。狭いけれども、このまま守り続けていきたい道路の一つです。道が狭いので、不便だなあと思うこともあるけれども、私は、この町が大好きです。

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

森、日本の誇り

岡部 達美

東京都私立東横学園中学校三年

今年の夏、日本中が豪雨に襲われました。産経新聞は、次のように報じました。

「活発な前線と低気圧の影響で、関東、東海地方は二十九日未明にかけて記録的な豪雨となり、(中略)、愛知県岡崎市では二十九日午前二時までの一時間に一四六ミリの猛烈な雨を観測。観測史上全国七番目の豪雨で、八月としては国内の観測史上最大を更新した。」

『観測史上最大』と言うことばが、私の恐怖心をかりたてました。数年前から続く、異常なまでの集中豪雨と災害。私は、本州が、すでに、温帯から亜熱帯の気候に変わったのではないかとさえ思いました。

昨年、『気候変動に関する政府間パネル』の報告が、示されました。第一に、このまま、化石燃料に頼って成長路線を進むと、今世紀末に、前世紀末より四度気温が上昇す

る。第二に、気温が九十年より二、三度上昇すると、温暖化の影響は、水、食糧、感染症、生態系の変化と、広範囲に及ぶ。第三に、地球温暖化による悪影響を食い止めるためには、二酸化炭素の排出量を、遅くとも二十年までに減少に転じさせないといけない。」

「特に沿岸域や低平地では、海面水位の上昇、大雨の頻度増加、台風の激化等により、水害、土砂災害、高潮災害等が頻発・激甚化するとともに、降雨の変動幅が拡大することに伴う渇水の頻発や深刻化の懸念が指摘されている。」とも。

地球温暖化に伴う気候変動は、人類の生存を危ぶませるまでになりました。確かに、例年よりも、エコに対する意識は高まっているように感じます。街中に、マイバックを持って買い物に出かける人が増えたとし、電気節約が大切

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

だという人も、増えました。そして、「もつたいない」の考えも、広まったと思います。しかし、『政府間パネル』に示された警告を活かすには、小さなことを大勢でするばかりでは、まだ、足りないと思うのです。

私の住む東京には、ゼロメートル地帯が広がっています。ここに、海面上昇が影響し始めたら。高潮災害や水害が、十分想定されます。バングラディシユのように、海岸侵食に襲われるかも知れません。しかし、我が国は、周り中を海に囲まれ、多くの河川が流れている厳しい条件下、今まで、多くの堤防、砂防ダムを築き、世界でも有数の治水を行って来ました。だから、きつと、専門家と行政、そして、国民の協力で、解決出来ると思います。

しかし、森は、どうでしょうか。政府間パネルの警告を活かす方法を考える時、森は、重要な存在だと思います。大気中から二酸化炭素を取り込み、酸素を分離、再循環させ、余分な二酸化炭素を幹・葉・根・周囲の土壤に蓄積します。人類に残された、唯一の酸素産出源です。森は、木材や工業原材料などを供給してくれます。森の土壤は雨水をためて、土壌を濡らし、地下水を作ります。雨の時にも土地の浸食がほとんどなく、山崩れ、土石流などの災害を防ぎます。森は、温度変化や強風を防ぎ、穏やかな気象条件を作るのです。このようなすぐれた森の持つ機能を見ると、森の活用が、地球環境の問題、異常気象による災害の問題を解く『鍵』であることが、わかるのです。

しかし、いま、わが国の森は、元気がありません。C・W・ニコル先生がおっしゃいました。

「日本は、世界でも数少ない、森の美しい国です。しかし、

いま、その多くが放置されている。人によって保護されていない。」

そんな時、植樹と森の管理による、豊かな森づくりが進められたら、どうでしょうか。日本は、環境先進国の名に恥じない、すばらしい国になるはずですが、すぐれた環境技術と、豊かな森。これらが両輪となれば、予測される気候変動による悪影響も、その被害も回避低減させられると思うのです。

しかし、それには、森への人々の関心を生み、森を復活させようとする意気込みに燃えた人材をつくらなければなりません。そのためには、どうしたらよいか。私は、森や里山に積極的に関わりを持たせる活動を、全国の学校で進めたらよいと、思います。山菜採り、たけのこ掘り、植樹・間伐などを、どんどん、児童生徒に経験させるのです。日本各地に置き去りにされている山間部の廃校跡を、森林体験の学校にするのもよいです。森づくりは、まず、人づくりから。森好きな人をつくることから始めるのがよいと思います。

いま、地球は、危機的状況にあります。地球温暖化による異常気象は、人類の生存を危険にさらし始めました。わが国も、例外ではありません。そんな時だからこそ、私は思うのです。森に培われた緑豊かな国土を、しっかりと、国民で支えて行きたいと。そして、強く思うのです。きつと、国民の力により、日本は、環境問題を克服出来ること。

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

静岡の空から広がる世界の輪

小林 太士

静岡県私立興誠中学校三年

「まずと、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい。」これは私の大好きな金子みすゞの詩の一片だ。今からさかのぼること約一年前。遠路はるばる、日本から遠く離れたアメリカから飛行機を利用してアレクスが我家にやって来た。彼は私と同じ中学生。ホストファミリーとして外国人を受け入れたのは、私が「同じ年代の外国の中学生と触れ合ってみたい。」と母に懇願したからだ。そうは言ったものの「言葉がちゃんと伝わるだろうか。」「相手が困った時は、どう対応すればよいだろうか。」等と頭の中で不安な気持ちが渦巻いていた。母も同様に「家庭料理が口に合うかしら。」「私もお父さんも英語は喋れないからお兄ちゃん頼むわよ。」などと一抹の不安を感じていた。しかし、時間は予想以上に早く流れ、対面の日を迎えた。国際交流センターの一室で彼と出会った。彼があまりにも

背が高いので、天井を見上げてしまった位だ。私よりも2、30cmも身長がある。家族の全員、予想以上の長身に思わず目と目を見合わせた。すると、彼は流暢な日本語で「ヨロシクオネガイシマス」と簡単な挨拶をし、大きな手を差し出して握手を求めてきた。その瞬間、不安は安堵に変わった。互いが打ち解けるまで、思ったほど時間はかからなかった。彼と一緒に学校生活を送るだけでなく、アメリカの中学生のライフスタイルや流行しているもの、時には発展途上国と先進国における諸問題など向上心溢れる話もした。

ある夜、家族で近くのショッピングセンターに出掛ける機会があった。おもちゃ売り場の前を通ると、アレクスは立ち止まったまま動かなくなった。彼は、目を凝らしてゲーム機を見つめていた。それは、私も以前から欲しくてたまらなかった商品だった。彼は私に「アメリカよりも格段に

優秀賞 (国土交通事務次官賞)

安い。どうしても買いたい。」と言つてきかなかつた。しかし、彼の所持金は日本円で買うには足りず、米ドルでは充分にあつた。そこで、彼と共にサービスカウンターに行き、米ドルでも購入できるか確認したが無理だつた。彼の落胆は大きかつた。国が違つても、欲しいものは変わらない、また手にすることが出来ず意気消沈する気持ちも共通していた。アレクスと一緒に経験した事柄を挙げると枚挙に暇がない。

彼と出会えたのは、世界の交通機関が発達しているからだ。特に、飛行機の果たす役割は大きい。日本とアメリカのフライト時間は約十数時間である。飛行機は、国と国とを短時間で往来することを可能にしている。遠い国も近い国も関係なく、身近に結ぶ架け橋のような存在だ。

しかし、飛行機は私たちの生活を物理的に豊かにする存在だけだろうか。アレクスと私は背の高さも肌の色も、話す言葉も、物事に対する考え方も違う。金子みすゞが「みんなちがってみんないい」と表現した心情が、私には飛行機が国と国を結ぶ架け橋である真意と重なつた。この地球上には、肉体的にも精神的にも文化的にも自分とは異なつた人々が実にたくさん住んでいる。「みんないい」とすることがこの星に存在するすべてのものに対する理解を深めていくのだ。そして、この理解を私たちに気付かせてくれる契機が飛行機や世界各国の空港なのだ。飛行機や空港があることで、私たちは様々な国の人々と出会うことができ、交流を深めることができる。

国土交通省というと、私たちは直ぐに私たちが暮らす日本の河川や海、森林、陸地の乗り物の整備を思い浮かべる。

しかし、先日社会科の先生から貰つた国土交通省のパンフレットを見ると、国土交通行政の五つの目標の中に、競争力のある経済社会の維持・発展という項目があつた。つまり、人と人、地域と地域、国と国がもつとたくさん交流し、競争しながらお互いに発展できるように、道路・空港・港湾・鉄道や都市などの機能の整備と記されていた。

平成二十一年三月に静岡県にも富士山静岡空港が開港する。県内に空港が出来れば海外主要都市と直に交流できる。空港を通して世界中の色々な国と静岡県が結びつくのだ。今よりも様々な国から多くの留学生や経済人、観光客が静岡県へ訪れるだろう。そして、静岡県についての文化や教育が世界に発信される。一方、静岡県民も今より海外へ積極的に訪問することが可能になる。地球規模の友情の輪を育んだり、産業界での経済効果も期待され、魅力的な静岡県になるに違いない。静岡県が海外への玄関口になれば、私たち学生も容易に旅することができる。さらには、静岡県が外国の都市との経済競争により参入しやすくなる。そして、静岡県自体が空を通じて世界に大きく羽ばたくことになる。

富士山静岡空港を通して、私とアレクスが再会できる日も必ずや近い将来やってくる。

佳作

作品名	氏名	学年	学校名
北の大地に新幹線	荒井 美紀	1年	北海道教育大学附属札幌中学校
川と暮らしを守るダム	小笠原あゆみ	1年	長井市立長井南中学校
世界の中の日本の国土	外磯 雅人	1年	つくばみらい市合和原中学校
未来の国土交通期待すること	深澤 佳将	1年	前橋市立南橋中学校
私達の森林	西澤 美波	1年	千曲市立屋代中学校
雨宮地域の自然と交通	大峽 美咲	1年	千曲市立屋代中学校
更なる発展を目指して	山本 瑠菜	1年	岐阜市立本荘中学校
エコなのに何故？	白井友佳子	1年	南山学園南山中学校女子部
中勢バイパスがくる	堀川 明音	1年	三重大学教育学部附属中学校
牛乳の届く道と環境について	久保田朝子	1年	洛南高等学校附属中学校
道路の状態について	福田 タ也	1年	松江市立湖北中学校
大野地区の道路	金阪 遼	1年	松江市立湖北中学校
人の力で住み良い街を	山田 夏希	1年	高松市立玉藻中学校
私達の町の環境問題	茂木亜梨沙	2年	余市町立東中学校
母の車窓から	角田 昌也	2年	前橋市立粕川中学校
道路の現状と未来への課題	柳澤 玲菜	2年	前橋市立南橋中学校
まちづくりを思う	林 恵仁	2年	君津市立周西南中学校
豊かで楽しい生活	松岡 理央	2年	君津市立周西南中学校

作品名	氏名	学年	学校名
新しい道路を利用してみたい	宇野 直也	2年	多摩市立鶴牧中学校
国土交通省の仕事	土田 愛子	2年	福井市美山中学校
暮らしを支える道路	佐藤 菜摘	2年	静岡市立美和中学校
私達の身近にある交通	岩井 裕司	2年	有田川町立八幡中学校
誰もが安全に通れる歩道	瀬戸本和磨	2年	山中学園如水館中学校
六十年前の足跡	谷口 奈緒	2年	佐賀市立城南中学校
当たり前から始めよう	熊谷 翔子	3年	弘前市立第三中学校
国土と交通と環境	佐藤美衣奈	3年	白河市立白河中央中学校
未来のこの町	山口 香奈	3年	宇都宮短期大学附属中学校
身の回りから気付いたエコ	能登 琴乃	3年	坂井市立丸岡中学校
とっても暑い夏の日	藤来 美妃	3年	海津市立南濃中学校
名古屋圏の空港について	小鳥 義隆	3年	名古屋学院名古屋中学校
現在の交通の問題と要望	小林 遼平	3年	守山市立守山中学校
国土と道路	谷 勇輝	3年	相生市立双葉中学校
未来の自動車	中西 美幸	3年	白浜町立富田中学校
身近な国土交通省	塩田 美智	3年	阿波市立阿波中学校
自然と共生する道づくりを	森 由紀子	3年	福岡市立香椎第三中学校

平成21年度 国土交通省関係主要行事（予定）

行事	日程
水防月間	5月1日～5月31日 (北海道は6月1日～6月30日)
不正改造車を排除する運動強化月間	6月1日～6月30日
土砂災害防止月間	6月1日～6月30日
かけ崩れ防災週間	6月1日～6月7日
まちづくり月間	6月1日～6月30日
景観の日	6月1日
測量の日	6月3日
河川愛護月間	7月1日～7月31日
川の日	7月7日
海岸愛護月間	7月1日～7月31日
海の月間	7月1日～7月31日
海の日	7月21日
国土交通Day	7月16日
森と湖に親しむ旬間	7月21日～7月31日
道路ふれあい月間	8月1日～8月31日
道の日	8月10日
水の週間	8月1日～8月7日
水の日	8月1日
観光週間	8月1日～8月7日
タクシーの日	8月5日
自動車点検整備推進運動強化月間	9月1日～10月31日
船員労働安全衛生月間	9月1日～9月30日
防災の日	9月1日
下水道の日	9月10日
空の日	9月20日
空の旬間	9月20日～9月30日
バスの日	9月20日
情報化月間	10月1日～10月31日
土地月間	10月1日～10月31日
土地の日	10月1日
都市緑化月間	10月1日～10月31日
住生活月間	10月1日～10月31日
浄化槽の日	10月1日
定期借地権の日	10月4日
トラックの日	10月9日
鉄道の日	10月14日
公共建築月間	11月1日～11月30日
公共建築の日	11月11日
雪崩防災週間	12月1日～12月7日
国連水の日	3月22日

私たちの国づくり

国土と交通に関する図画・作文コンクール入賞作品集

発行 平成 21 年 3 月

国土交通省大臣官房広報課

〒 100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3

TEL 03-5253-8111 (代)



国土交通省